

ロータリーと仕事 —古書と神保町— 八木 壮一 会員

ロータリーと私

当クラブ創立の平成5年に神田RC会員、当時三省堂副社長の白石さんに勧めら入会しました。例会場は山の上ホテルに断られ神田RCが使っているグランドパレスに、バナーは神田明神の御神輿を使うことにしました。創立記念例会の写真が手元にありませんが、10年史に載っているようであればHPに掲載したら良いと思います。これは4年前、天理図書館と奈良RCに行った時の写真です。私のロータリー活動は地域や仕事関係で職業奉仕をして参りました。

<八木書店小史>

昭和9年1月、父で創業者の八木敏夫が、一誠堂書店から独立して日本古書通信を創刊しました。戦後は上野松坂屋古書部・特価本仕入部を開設、昭和28年八木書店として神保町に移転、昭和36年古書部を靖国通りに開設、昭和62年小川町本社ビルを竣工しました。

これは昭和9年1月に父が創刊した「日本古書通信」です。インターネットもない時代なので古書業界の情報誌として大変重宝されました。「市の三月は店の三年」と言われていましたが、市場の情報を広く提供し、業界の指針という使命をもって情報誌を創刊しましたが、3年後に情報の提供を禁止されました。不況を乗り越えた父は、一般の読者向けに古書通信を創刊し、全国古書店の情報を目録として掲載したのが昭和11年でした。

<古書の話>

古書は目録を出しお客様や公共図書館、大学図書館に買って頂くのが基本です。今はネットでの注文もありますが、やはり、お客様に目録をお見せして買って頂くことが主流です。

<古書の世界>

日本は1200年前の書物が残っていて、これは世界でも稀なことです。歴史は中国が古いですが、戦争の影響で書物は残っておらず、また、奈良平安朝に中国に渡った僧侶が持ち帰ったため中国の書物が日本に多くあると言われていました。

<扱って良かった書物>

写本 正倉院文書は本来、世に出るものではありませんが少し扱っています。これは、山辺諸公の写経の報告書です。左の天平20年5月20日の日付と右の天平20年6月25日と2つありますが右が偽物です。たまたまこの2つを手に入れることができ、今は佐倉の歴史博物館に納まっております。私どもは古書の市場だけではなく、美術クラブの市場にも入っておりますが、これはその時に見つけた荘園の図です。珍しいものと判断して4,000万円で落札しました。この越中の国荘園の図です。この時代の荘園の図は現在10点ぐらいしか残っていません。残っているもののほとんどが裏打ちしてあり、私どもが扱ったものは裏打ちもない状態の良いものです。これは奈良国立博物館に納め、館長から「うちの宝物になる。」と大変喜ばれました。納めた翌年に重要文化財になり、その後国宝になりました。

この源氏物語は米国議会図書館に納めたものです。その前に日本の大学図書館などに話したのですが、予算がつかず買ってもらえませんでした。そのために、

日本の学者は源氏物語の調査のためアメリカに行きます。今はこの本をWeb配信しています。

これは古書市場に出ていた奈良絵本です。継子いじめの物語で12巻あり、人気があり8,000万円で落札しました。今は広島のある宗教団体が所蔵しています。

版本・印刷本 父の代から百万塔の陀羅尼経をよく扱います。現存する印刷物としては世界最古です。1200年前の古書を扱えるのは古書業者としては世界でも、私どもだけであろうと思っております。

活字印刷本 きりしたん本・古活字版 私が一番興味をもっているのは、きりしたん版という印刷物です。遣欧使節がヨーロッパに行った時に活版印刷の技術を日本に持ち帰りました。100種類ぐらい作られていると思いますが、残っているのは32種類だけです。32種類目のものは私どもが20年ぐらい前にフィリピンで見つけました。これもきりしたん版で落葉集という辞書です。天理図書館に納め、今、重要文化財になっています。ひですの経です。100年前にドイツにあったことが記録にありましたが、その後行方不明でした。しかし、80年経った頃にハーバード大学にあることが判明し、私どもで複製、出版しました。これは後陽成天皇の勅命によって出版した日本書紀です。嵯峨本の伊勢物語は綺麗な本です。好色一代男の初版を扱うことができ天理図書館に納めました。蕪村の「新花摘」です。初版で残っているもので一番良いものです。アメリカのオークションで手に入れ、伊丹の柿衛文庫に納めました。

<近代>

近代本は私どもが得意としているものです。この森鴎外「文つかい」という原稿は大阪樟蔭女子大に納めました。夏目漱石「三四郎」の原稿です。一昨年、夏目漱石のある原稿を扱いましたが、世に出す許可が出ていません。注目されるものだと思います。

出版 一昨年、源氏物語・定家本を複製して出版しました。重要文化財になっています。

地域と業界での仕事

神田青空古本まつりの宣伝を20年しておりました。ブックタウンじんぼうのWebサイトは4月にリニューアルします。神田古書籍商史の続編は私が編集しました。本の街 神保町を元気にする会の事務局長を務め、神保町ブックフェスティバルにも関わってきました。

看板建築の現代版は可能か—家業が続けられる街—

神保町研究会では、看板建築に変わる現代版が可能か、家業が続けられる街であるためにはなど、いくつかのプロジェクトで模索しています。日本でも商店街と市民参加型の街づくりが重要になると思います。ヨーロッパではBID制度（地域活性化制度）があります。他国のことも学びながら、神保町の今後を考え、家業を続けられる街にしていきたいと思っております。